



M.H 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2018年3月1日～3月10日(10日間)

ロ. プログラムについて

このプログラムは、台中にある静宜大学で10日間、日本語学科の学生に日本語を教えるというものです。時間は、110分(うち10分は休憩)、これを2コマ、私は受け持ちました。

実習の一か月半ほど前から、日本語日本文学科の丸山敬介先生と連絡を取りつつ、教案を作成、丸山先生に教案を提出し、何度か訂正してもらいました。実習の一か月ほど前になると、静宜大学の先生方ともメールで連絡をし、作成した教案を提出し、訂正やアドバイスを頂きました。110分の授業は一人で受け持ち、生徒の人数は約20～40人くらいとなります。長い授業で不安かもしれませんが、実習先の先生が助けてくださったので、自分のベストを尽くせば良いと思います。

また、実習中の土、日曜日には、静宜大学の学生さんが台中の街を案内して下さいます。私は、美味しいお店や、観光名所などに連れて行ってもらいました。学生さんは、少しシャイですが、仲良くなるとたくさんのお話を聞かせてくれます。台湾の学生の日常など、日本とは異なった部分を知ることができ、とても楽しいです。実習先の先生方もとても気さくで話しやすい方が多いので、先生方のお話をうかがうのも、すごくためになると思います。





ロ. 参加希望者へのアドバイス

私は、このプログラムには絶対参加しようと決めていました。しかし、参加できることになり、いざ教案をつくり始めると、本当にこの教案でいいのか、現地の学生はわかってくれるのか、実習先の先生はどんな方なのだろうか、などの不安が次から次へと出てきました。そんな時は、丸山先生や実習先の先生方にどんどんアドバイスをもらえばよかったと思います。私は、先生方との連絡が億劫で、あまり連絡を取りませんでした。不安な気持ちをぐるぐるとさせておくのではなく、不安なところは先生方に聞いて、万全の準備をしておくほうがよいと思います。

生活面に関してですが、3月でも蚊がたくさん出ました。虫よけなどを持って行ってもよいと思います。ただ、学校の外にはなりますが、すぐ近くに薬局があるので、現地で調達するのもよいかもしれません。また、気温差がとても激しいです。日中30℃まで上がる日もあれば、10℃を下回る日もありました。体調管理に気を付けた方がよいと思います。

チューターさんに関しては、私たちを案内するために、プランニングしてきてくれます。しかし、チューターさんもどこに連れて行けば喜んでくれるのかなど、迷うようです。事前に行きたいところをいくつか自分の中で考えて、どこに行きたいか聞かれた時には、答えられるようにしておけばよかったと思います。

実習参加に関してですが、正直なところ教案をつくるのは大変です。また、作ったとしても、台湾に行ってから一から作り直し、ということもあります。実習が終わるまで不安もたくさんありましたが、実習を終えた今、心から参加してよかったと思っています。110分の授業は大変ですが、それ以上に得るものがありました。迷っている人は、ぜひ参加してみてください！





A.M 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2018 年 3 月 1 日～3 月 10 日（10 日間）

I. プログラムについて

私はこのプログラムを通して初めて、実際に外国語として日本語を勉強している学習者に、日本語を教えるという経験をしました。また台湾では、当たり前ですが、このプログラムに参加した私たちは、外国人として、日本語ネイティブとして見られていました。私が担当したクラスは、2 年生のクラスと 3 年生のクラスで、ちょうど自分と同じ年代の学生だったので、日本語ネイティブということと、同年代という強みを活かした授業を考えることが出来たと思います。このように、自分が外国人になって、同じ年代の学生に日本語を教えるという体験は、大学生の今しか出来ないと思うので、今回このプログラムに参加できて本当に良かったと思います。

また、このプログラムに参加した 10 日間でも印象に残っているのが、「(日本語) 教師はサービス業なんです」という、静宜大学の日本語日本文学科の主任の先生の一言でした。日本語教師は、いかにして学生に日本や日本語に興味を持ってもらって、印象に残る授業をして、日本語学習のモチベーションを保たせるかが大事だと話してくださいました。私は、日本語教師という職業は、日本語の文法や発音、日本の習慣などについて、正しく、間違いがないようにきっちりと教えることが第一だと思っていたので、「(日本語) 教師はサービス業」という考え方を聞いて、日本語教師について新しい見方が出来るようになり、とても面白いなと思いました。



II. 参加希望者へのアドバイス

私もこのプログラムに応募する前は、初めての経験を前に、楽しみや期待の気持ちよりも、不安のほうが大きく、応募するかどうか迷っていました。しかし、プログラムを終えた今では、大学生のうちに参加して本当に良かったと思っています。プログラム中の 10 日間は、授業を担当したり見学したりするだけではなく、静宜大学のチューターさんやその友達と一緒にご飯を食べたり、台中市内を観光したりと、とても充実した日々を過ごすことができました。授業を担当する教師としての経験も、静宜大学の学生としての経験も出来て、すごく貴重な 10 日間だったと思います。



また、台湾の学生と一緒に参加した仲間との交流も大きな思い出です。台湾の学生とは 10 日間という短い期間でしたが、涙が出るくらい優しくしてくれて、思っていた以上に仲良くなることができ、出会えてよかったと思える友人になりました。一緒に参加した仲間とも、それぞれの担当の授業の相談をしあったり、授業の見学に行ったりと、10 日間一緒に頑張った仲間として、絆が深まったと思います。

このプログラムを通して、日本語教育に関する勉強や経験が出来ただけではなく、現地学生との交流や、人としての成長など、本当に多くのことを経験できたので、この 10 日間は私の人生の中でもとても意味のある期間になりました。もし参加するかどうか迷っているなら、ぜひ参加をお勧めします！





M.M 英語英文学科 2年次生

参加期間： 2018年3月1日～3月10日（10日間）

ロ. プログラムについて

台中の静宜大学で、初日と最終日の教育実習をさせていただきました。渡台前は、授業準備などに追われ、静宜大学の先生方とメールで相談しながらドタバタしていたように思います。現地に入ってから、他の実習生の授業を見学したり、教案を変更し授業準備をしたりと、いろいろと忙しく充実した10日間だったと思います。実習中は、実習生同士が互いの授業でフォローできていたこともあり、特に大きな問題はありませんでした。また静宜大学のある先生の授業を見学したとき、授業後半で急遽、私が神社についてレクチャーすることになりました。学生の反応も良く、自分のリズムで日本文化を伝えることができました。実習初回は、緊張のせいで授業をスムーズに進行させることができなかったのですが、実習や見学を重ねていくことで徐々に双方向の授業にしていくことができました。そして静宜大学の学生やチューターの皆さんと、実習の合間や休日に食事やお買い物に出かけたことも印象的です。非常に親切に接していただき、あたたかい応援もあったので、異国の慣れない中での実習も乗り切ることができました。





□. 参加希望者へのアドバイス

渡台前に授業準備をしっかりといても、実習直前に指導する課の変更や、担当の先生から授業スタイルに指定があり、やむを得ず大幅に変更しなければならないということがありました。ですので、準備は余分なくらいがちょうどよいと思います。急な変更慌てることなく、柔軟に対応することが求められます。そして、先生として堂々とした態度で実習に臨むことが最も重要であると私は思います。慣れない環境の中で、楽しい旅行だけをしていても、体調を崩すなどいろいろなトラブルが想定されます。海外での教育実習となればなおさらです。実習に関する準備だけでなく、生活の面においても万全な準備が必要だと思えます。実習においても、台湾での異文化体験においても、笑顔を中心掛け、自分の想いを何とかして伝えたいという気持ちをもつことが、何よりも大切なことではないでしょうか。